

栃木県農業大学校 令和5年度学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント		
				学部・塾	内容						
1 入学生の確保 (就農を目指す応募者の増加)	<p>(現状)</p> <p>○入学生はH31からR3まで定員を下回っていたが、R4は計80名、R5は77名と概ね確保出来ている。</p> <p>○R5年度生募集に係るオープンキャンパスは、生産学部が151名、経営学部(いちご学科)が35名、計186名となり参加者数目標の160名を上回った。</p> <p>○いちご学科は創設3年目にして定員以上の学生数を確保した。</p> <p>○とちぎ農業未来塾では、受講希望者数や品目について経済状況に左右される傾向がある。</p>	<p>入学生 80名 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産学部 70名 ・農業経営学部(いちご学科) 10名 <p>とちぎ農業未来塾生 70名以上</p>	<p>(1)農業大学校の情報、魅力の発信</p>	生産学部	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパス等による農大の理解促進 ・農業高校、一般高校に分けて実施。 ・いちご学科単独でも実施する。 ・プログラム等を工夫し、より多くの参加者を確保する。 ・HP・ポスター・チラシ等により適時適切なPRに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内農業高校対象(農業生産学部のみ) 1回 ・一般高校対象 2回 ・いちご学科単独 3回 ・うち3回を日曜日に実施 ・農大生との交流会、実習体験が高評価であった。 	入学生 70名 (内訳)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の都合を考慮したオープンキャンパス実施日の決定 いちご学科は単独回を含め5回開催 ・日曜日開催-多くの参加者を得たので引き続き実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の方の非農家率が上がったのは？ → 5年以上前から。 ・県外からの学生は？ → 生産学部1年生は5人。 ・出前授業は農業高のみか？ → 限定していない。 ・間口の広めかた → 検討したい。 		
				経営学部	<ul style="list-style-type: none"> ○高校への出前授業・高大連携、JA等への農大PRの推進 ・学校説明会や出前授業等に積極的に参加し、情報発信を図る。 ・キャンパスガイドや学生募集チラシ等の配布を速やかに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会17校25回参加 ・学生募集チラシ等を4～5月上旬に作成・配布 ・オンラインによる高大連携をなし、いちごで実施。 	9名			<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター・チラシを早期に作成・配付し、少しでも早く開催のPRを行う。 	
				生産学部 経営学部 未来塾	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの充実、県SNSの活用 各部・学科等の情報をきめ細かく発信し、PRを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP掲載のデータを更新 ・写真を多用し、見やすい記事を掲載 ・農大ホームページ記事掲載63回、うち農政部X(旧ツイッター)掲載38回。 	とちぎ農業未来塾生 86名			<ul style="list-style-type: none"> ・農大HPに随時最新情報を更新する。 ・オープンキャンパス等開催情報を早期に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“映え”を気にする学生の協力を得てPRしては？ 校内の普段の姿を見せたい。写真サークルもある。身近なものも題材にする。
				生産学部 経営学部 未来塾	<ul style="list-style-type: none"> ○農大の魅力発信の工夫 ・各種広報誌等でのPR、マスメディアの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営技術課を通し、新聞社や放送局等にイベントや学生募集等の情報を発信 ・「県民だより」に入試やオープンキャンパス実施情報を掲載 ・「トチノ」にいちご学科、未来塾の情報を掲載。 					
経営学部 未来塾	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農イベント等におけるPR ・新規就農相談会の紹介や新農業人フェアへの参加などによりPRを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農相談会やとちぎで農業をはじめのフェア等でのPRと個別相談。農業体験ツアーにおける未来塾ほ場案内実施。 	オープンキャンパス全体参加者数 165名	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農相談会の紹介や新農業人フェアへの参加などによりPRを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県外からの就農、栃木は少なかった。県外へのPR、栃木らしさを伝える努力 → 初めはHP。いちご学科は栃木らしさ。どんどん発信を。 						
生産学部 経営学部	<p>(2)入試方法の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施時期、出願期間等の随時見直し 前後期試験の日程を調整し、出願者をより多く確保する。 いちご学科では出願期間を長期に設定し、学生の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体や金融機関等に学生募集のポスター掲示やリーフレット設置を依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各入試の出願期間を1か月前後設ける。 ・高校の行事、農業系大学の入試日程を考慮して出願期間、試験日を決定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携オンライン4回実施、高校では変化あったか？ → (小林委員)VRは役に立っている。もっとPR出来るよ。現役学生の生の声も聞いてみたい。 					
	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高校生対して、農業大学校の存在や特徴を認知してもらい、就農を目指す応募者の増加を図る必要がある。 ●「いちご学科」について、農業振興事務所や農業関係団体等との連携とともに、高校生・大学生、社会人、農業者等幅広い年代への積極的な広報活動等により、「いちご経営者」を目指す学生の確保 										

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
				学部・塾	内容				
	を図る必要がある。 ●とちぎ農業未来塾の受講希望者や品目については、柔軟な受け入れ体制が必要である。				○出願期間等の改善 ・合格者への情報提供 入学までに不安がないよう早めに手続き等の情報提供を行う。 県就農相談等への参加などの情報を提供していく。	在校生の情報（雑誌等の記事）を収集－合格者に送付		合格者に対し、 ・本校イベントやオープンキャンパス、県の就農相談等への参加を促す。 ・在校生の情報を提供して入学への期待が高まるようにする。	